



8月のお盆を旧盆 というのはなぜ

旧盆とは、旧暦（陰暦）で行うお盆のこと

お盆は、先祖の霊（死んだ人のたましい）を、家にむかえ入れてくよする 仏教行事です。ふつう、お盆は7月13日から16日ごろに行います。しかし、地域によっては、旧暦（明治初期まで使っていた古い暦）によって、月おくれの8月に行く所もあります。このように、旧暦で行うお盆のことを旧盆といいます。

お盆のときには、ふつう、むかえ火をたいて先祖の霊をむかえ、精霊棚を作ってお供え物を供えます。お坊さんにお経をあげてもらい、墓参りなどをして、最後に送り火をたいて、先祖を送ります。

お盆になると、都会に出て働いている人たちが、ふるさとに帰るので、毎年、交通混雑が起こったりします。

旧暦と新暦

旧暦（陰暦）とは、月の満ち欠けをもとにしてつくった暦です。日本では、1872（明治5）年まで使われていました。これに対して、今、私たちが使っている暦を新暦（陽暦）といいます。新暦は、地球が太陽のまわりをひとまわりする時間を1年とする暦です。

旧暦と新暦は1か月あまりのずれがあり、旧暦のお盆は8月15日ごろになります。

（監修・青木 国夫）

